

モニタリング結果報告書

施設 神奈川県立神奈川近代文学館
指定管理者 (財) 神奈川文学振興会
施設所管課 県民局くらし文化部文化課

(平成 21 年度 下半期)

管理運営状況総括

1 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	備考(確認事項等)
10月	11月 8日	11月 17日	改善すべき業務等なし
11月	12月 8日	12月 18日	改善すべき業務等なし
12月	1月 8日	1月 19日	改善すべき業務等なし
1月	2月 10日	2月 17日	改善すべき業務等なし
2月	3月 10日	3月 15日	改善すべき業務等なし
3月	4月 9日	4月 15日	改善すべき業務等なし

2 指定管理者の選定理由にある取組み等の実施状況

(1) 提案内容の達成度

A: 提案を上回る B: 提案どおり C: 提案を下回る

(2) 実施状況等

指定管理者の選定に際して、サービスの向上や利用促進の観点から提案された各取組み等について、提案内容の要旨とそれに対応する形で実績を記載する。

<提案内容の概要>

人的財産とネットワークに基づく卓越した資料収集能力等を生かして幅広い事業を提案

提案内容の概要

- ① より多くの来館者を獲得するために、様々なニーズに応じた展示を企画、開催する。
(集客をめざす展示、独創性のある展示、外に広がる展示など)
- ② インターネットによる所蔵資料情報の公開を進める。
- ③ 専門館として文学のレファレンスにきめ細かく対応する。
- ④ 館所蔵、新収蔵資料を柱に構成した展覧会も積極的に開催する。

<実施状況>

- ①・④ 10月～11月 特別展^{※1} 「大乱歩展」を実施 入場者数 9,453名
11月～1月 企画展^{※2} 「長谷川時雨展」を実施 入場者数 2,288名
1月～2月 常設展 「文学の森へ」を実施 入場者数 1,459名
3月 常設展 「中村光夫文庫」「新収蔵資料展」 入場者数 1,186名
(年間計 35,720名)
- ② 近代文学館のホームページで実施
ホームページアクセス件数 64,285件 (年間計 125,164件)
(うち蔵書アクセス件数 19,439件 (年間計 38,147件))
- ③ レファレンス^{※3}対応 115件(年間計 199件)

※1 特別展: 毎年2つの展示室で開催する大規模な展覧会。年2回(春と秋)開催。

※2 企画展: 常設展「文学の森へ」と同時開催する展覧会で、展覧会ごとに新たな企画として開催する中規模の展覧会。展覧会区分としては特別展に属する。

※3 レファレンス: 文学に関する情報ないし資料等の各種問い合わせに対し、仲介的な立場から援助するサービス。利用案内、資料提供なども含む。専門的な質問も数多く、公共図書館等他施設からの照会もある。

3 収支状況（単位：千円）注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しません。

	収 入 額			支出額	収支差額
	指定管理料	利用料金 (前年同月料 金額)	その他収入		
年間予算額	417,624	405,287	6,274	417,624	0
上半期計 (a)	188,473	179,984	4,914 (6,343)	183,403	5,070
下半期計 (b)	252,508	225,303	5,034 (4,252)	257,579	△5,070
10月	37,301	33,003	1,918 (1,287)	32,366	4,934
11月	32,824	29,829	1,855 (1,540)	29,167	3,657
12月	52,691	52,247	363 (389)	52,511	179
1月	27,633	27,221	329 (273)	27,203	429
2月	31,662	31,208	291 (294)	26,178	5,484
3月	70,395	51,795	275 (467)	90,151	△19,756
合計 (a+b)	440,982	405,287	9,948 (10,595)	440,982	0

- 1 指定管理者の収入を記載する（県の収入である「使用料」は含まない）。
 2 「その他収入」は、都市公園の駐車場収入、雑収入、寄付金収入など指定管理料と利用料金以外のすべての収入を記載する。

収支状況に関する意見等

- ・ 半期計欄の収支差額が、収入額又は支出額のうち低い方の額の1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。
- ・ また、収支差額に1割以上プラスが生じた主な理由が、人件費の削減である場合は、年度協定における人員配置計画と比較し、合理性が認められるか否かを記載する。
- ・ 年間予算額の収支が均衡していない場合は、その理由を記載する。

- ・ 秋に実施した特別展は、前年同期の特別展と比較して入場者数で約13%の増、有料入場者数で49%の増となり、入館者数、観覧料収入共に増加した。
- ・ 当初上半期予定の空調用熱源の点検、空調機周りの機器整備工事等を、展示室への影響及び施工の工程等に配慮し下半期に順次実施。
- ・ 上半期に課題となった、展覧会開催経費、パネル製作等の精算手続の遅滞（履行確認後の精算、請求の未達）の解消と共に、相手方遅滞の輸送会社精算手続きも督促を行い順次執行し、下半期は支出が増加した。
- ・ 3月の支出増は、2月分と3月分の支出が重なることなどによる

(今期に行った資本的な収入及び支出等の状況)

	内容	金額(千円)
収入の状況	なし	
支出の状況	なし	
積立等の状況	なし	(期首)
		(期末)

収入の状況：定期預金の取り崩し、借入れによる収入があった場合等は、その旨を必ず記載する。
 支出の状況：車両の購入、施設の増改築、また定期預金の積み立てを支出に含めた場合等は、その内容を必ず記載する。
 積立等の状況：積立・借入れ等がある場合は、その内容（施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等）、当該期首及び期末の金額を必ず記載する。

4 利用状況

	利用者数	前年同月利用者数	前年対比増減率
上半期計 (a)	35,437人	30,887人	14.7%
下半期計 (b)	26,383人	24,865人	6.1%
10月	7,831人	5,198人	50.7%
11月	7,331人	6,578人	11.4%
12月	3,311人	3,752人	△11.8%
1月	2,854人	2,473人	15.4%
2月	2,483人	2,323人	6.9%
3月	2,573人	4,541人	△43.3%
合計(a+b)	61,820人	55,752人	10.9%

半期計欄の前年対比増減率が、1割以上プラス又はマイナスとなっている場合は、その理由を分析し記載するとともに、必要な場合は、対応策も併せて記載する。

10,11月の利用者数の増は特別展「大乱歩展」好調の結果である。3月の減は、前年度は虚子記念文学館との共催による企画展「子規から虚子へ」開催により例年に比して利用者が増えたが、21年度は常設展開催であったため、入館者数が伸びなかったことによる。
 (常設展に併設して「収蔵コレクション展9 中村光夫文庫から 没後100年二葉亭四迷展」を開催したが、あまり入場者数は伸びなかった。)

5 苦情・要望等の状況

(施設受付分)

報告月	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	メール	アンケート	
10月	0	0	0	0	22	22
11月	0	0	0	0	18	18
12月	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	4	4
2月	0	0	0	0	9	9
3月	0	0	0	0	3	3

(施設所管課受付分)

報告月	口頭	文書	合計
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0

6 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

類似の苦情や要望が多く寄せられたもの、苦情や要望をもとに対応した取組みが利用者に評価されたもの、苦情や要望のうち対応したいと考えるが、諸般の事情により対応できないものなどを記載する。

分野	概要	対応状況
施設・設備	・展示室内が暗い。	・スポットライトの向きを工夫して対応。
職員対応	・展示室内で私語が多い人がいるので張り紙をして欲しい。	・展示室内の掲示枚数と職員による巡回を増やすことで対応。
事業内容	・展覧会の告知をもっとして欲しい。 ・新しい作家・作品の展覧会を開催して欲しい。	・各種広報誌の掲載に努めた。 ・没後間もない作家の展覧会を開催（城山三郎展）
その他	・販売物に種類を増やして欲しい。	・販売場所を工夫し、魅力ある商品を確保することで対応。

7 事故や不祥事等の発生状況

利用者や職員が死傷した場合、業務の実施において法令違反等による指導や処分を受けた場合及び個人情報や公金の管理等において不適切な取扱い等があった場合は、その概要と対応状況を記載する。なお、利用者の死亡事故や個人情報の流出等、重大な事故や不祥事が発生した場合は、行政システム改革推進課に任意の様式により速やかに報告書を提出する。

* 該当なし

発生日	概要・対応状況等
月 日	
月 日	
月 日	

8 随時モニタリングの実施状況

〔 事故や不祥事の発生等に伴い、施設所管課が随時モニタリングを実施した場合は、調査内容や結果を記載する。 〕

* 該当なし

実施日	対応者等	経緯・調査内容	調査結果
月 日			
月 日			

9 上（下）半期の所見等

〔 1～8の各項目の状況等を踏まえ、指定管理業務をより効果的・効率的に推進する観点から、反省点や改善策等を記載する。 〕

指定管理者	<p>特別展：開館 25 周年記念特別展「大乱歩展」は、立教大学・江戸川乱歩記念大衆文化研究センターとの共催により 10 代～70 代まで幅広い年齢層の支持を得て、入館者数並びに展示入館収入共に好調な結果を示した。</p> <p>企画展「生誕 130 年 長谷川時雨展」と春の収蔵コレクション展 9「中村光夫文庫から 没後 100 年二葉亭四迷展」は、当館ならではの企画であり、入館者数こそ大きな伸び(長谷川展 2,288 人、四迷展は 1,186 人)がなかったが、来館者からは「極めて有意義」(長谷川展)な展示と好評が得られた。このような地道な展示活動を続けることが貴重な文学資料の新たな寄贈に繋がるものと考えます。</p>
施設所管課	<p>展覧会については、他の文学館や大学研究機関などと連携し経費の節減を図りつつ、二つの特別展と四つの企画展を開催、指定管理移行後、最高の入館者数を記録するなど大きな成果を上げている。</p> <p>館の運営管理については、来館者の要望にできるだけ応え、おおむね良好になされている。</p> <p>引き続き、館の維持管理とともに、時代のニーズに合った魅力的な展覧会の開催、貴重な蔵書管理など文学振興策を実施することが期待される。</p>